慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫昭和四十年度彙報
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1966
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.5 (1966.) ,p.381- 384
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000005-0381

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫 昭和四十年度彙報

人事

昭和四十年四月一日附を以て、文庫書記（図書係）に草森紳一君、同六月一日附を以て図書係臨時雇に左近士秀子君がそれぞれ新任。

昭和四十一年四月一日附を以て、本文庫助手平沢五郎君は、専任講師に昇進した。

文庫委員会

六月三十日午後三時より、本文庫長室に於て開き、文庫長より、昭和三十九年度文庫事業概要、三十九年度収支決算、三十九年度文庫賛助員会決算、四十年度予算、文庫近況を報告し、ついで、四十年度調査研究計画を審議決定す。

一月二十六日正午より、図書館記念室に於て開き、文庫員人事の件を審議決定す。

研究調査

前年度に引き続き左の研究題目を中心として、調査研究と副本作成を進めた。

(1)我が国古典に関する室町以前成立の注釈書並に室町物語類

（担当者　松本隆信・平沢五郎）

(2)室町以前の日本漢学資料

(A)邦人撰述漢詩文集類

(B)邦人撰述漢籍注釈書類

(C)日本現存漢籍古写本の綜合的研究

（担当者　阿部隆一・太田次男・尾崎康）

特に四十年度に於ける各文庫員の研究調査題目は左の如し。

阿部隆一

一、古文孝経古写本の研究

一、室町以前本邦伝存漢籍資料類の調査及複写

太田次男

一、室町以前に於ける白氏文集受容についての研究

一、室町以前邦人撰述漢詩文集類の調査

松本隆信

一、室町時代物語の研究

一、平家物語百二十句本の諸本に関する基礎的研究

平沢五郎

一、金葉和歌集諸本の研究

一、唐鏡校異篇の編纂

一、橘守部自筆稿本の研究

尾崎　康

一、六朝隋唐時代通史年代記帝系譜類の研究

一、北斉文林館の研究

一、本邦現存漢籍古写本の調査及複写

阿部隆一・尾崎康

一、「文館詞林」の輯佚本の編纂と解題

一、漢籍引用の多い鎌倉以前に成立せる図書に於ける引書索引並に証注

上記の課題に関聯して、阿部隆一は、「古訓点の文体的展開の研究」の課題で、文部省の昭和四十年度文部省科学研究費助成補助金（各個研究）を受け、尾崎康は、「文館詞林の基礎的研究」によって、昭和四十年度本塾学事振興資金による研究補助を受けた。

文庫員が右の研究題目に関聯して、本年度に於て公表せる研究成果左の如し。

阿部隆一　「聖徳太子平氏伝雑勘文」「上宮太子拾遺記」引書（漢籍）索引並証注（"Library Science" No. 3.）

平沢五郎　唐鏡—本文篇—（吉田幸一氏と共校「古典文庫」第二一七冊）

調査出張

上記の研究課題に関する諸本の調査及び図書撮影のため、都内及び近傍の諸所に出張したが、主な地方出張をあげれば

七月五日—十三日　岡山県備前町正宗文庫・岡山大学・京都大学図書館・天理図書館に於ける「金葉和歌集」の調査及撮影　出張者　松本隆信・平沢五郎

七月七日—十七日　岡山県正宗文庫・岡山大学・大阪市上野精一氏・京都大学・陽明文庫・叡山文庫に於ける漢籍古写本類の調査及撮影　出張者　阿部隆一・尾崎康

八月十六日—廿六日　叡山文庫の天海蔵を中心とする同文庫蔵書全般の調査　出張者　阿部隆一

九月六日—十日　仙台市斎藤報恩会博物館・宮城県立図書館・東北大学附属図書館蔵の御国浄瑠璃写本類と併せて古今集注釈書・室町物語の調査及撮影　出張者　松本隆信

九月廿五日—廿七日　栃木県足利市足利学校遺蹟図書館所蔵足利学校旧蔵本の調査並に撮影　出張者　阿部隆一・井上善一

十月十八日—廿三日　京都東山御文庫蔵平安鈔本古文尚書・鎌倉鈔本毛詩

叡山文庫蔵漢籍の調査及撮影　出張者　阿部隆一・尾崎康

十一月八日—十日　愛知県豊川市竹本家穂久邇文庫蔵漢籍古写本類の調査及撮影　出張者　阿部隆一・平沢五郎・尾崎康

十二月六・七日　愛知県西尾市立図書館岩瀬文庫蔵室町物語・仮名草子類の調査及撮影　出張者　松本隆信

十二月十三日—十八日　京都大学附属図書館・天理図書館蔵白氏文集の訓点の調査　出張者　太田次男

三月廿九日・卅日　足利学校遺蹟図書館蔵本の複写撮影　出張者　井上善一・山里石峰

図書

四十一年三月一日現在、その整理を完了し、登録せる今年度増加図書は、定期刊行物を除き、一三六部二一三五冊、うち寄贈書は二二部二三冊、斯道文庫賛助員会による購入本は十一部一八六四冊。累計図書冊数は八〇五二七冊。本年度の

定期刊行物の増加数は九種である。今年度の主な寄贈者の芳名を左に録して、感謝の意を表する。

京都大学人文科学研究所殿　東京大学殿　天理図書館殿　東京都立日比谷図書館殿　大阪府立図書館殿　吉田幸一殿

昭和四十年度文部省の私立大学研究設備助成金により、日本漢学資料としての次の古写本・古刊本類十二部一六一冊（二九八万九千円、内補助額一九九万円）を購入した。

春秋経伝集解三〇巻　晋杜預撰　〔南北朝〕刊　十冊（足利学校庠主三要元佶の書入周密）

春秋経伝集解三〇巻（巻廿九・卅欠）　晋杜預集解　〔室町〕写　清家点入　七冊

論語十巻　魏何晏集解　〔室町〕写　五冊

同　巻一・二　〔室町〕写　一冊

同　十巻　慶長十四年　洛納宗与刊　古活字版　二冊

同　十巻　慶長十四年　洛納宗三刊　古活字版　二冊

同　十巻　〔慶長〕刊　二冊

孟子抄　巻五　清原宣賢講　古活字版　一冊

史記　一百卅巻　慶長古活字第三種本　林読耕斎等旧蔵　古訓点書入　五十冊

〔仮名〕貞観政要　十巻　〔菅原為長〕撰　〔近世初〕写　十冊

朱子語類大全　一百四十巻　宋朱熹撰　朝鮮古刊　六九冊

老子道徳経　二巻　旧題漢河上公章句　天文十五年写　二冊

斯道文庫賛助員会寄附金による主な購入本は、

古今和歌集抄　天正十四年写　一冊

故犬養木堂翁の玄祖父訥斎先生（若林強斎の門人）手写にかかる崎門学派強斎の未刊講義録本。此は翁が吾家の家宝として永久に保存すべしと各部毎に識語を記して修補を加え、自筆の題簽を附されたものである。その細目は

易学啓蒙師説　写　三冊

朱易衍義師説　写　一冊

大極図説師説講義　写　一冊

感興詩師説　写　一冊

大学師説　写　四冊

中庸講義　写　十一冊

論語師説講義　写　廿四冊

孟子講義　写　十二冊

近思録講義　写　八冊

玉録師説　写　四冊

袁中郎文抄　栗本鋤雲手写　一冊

慊堂文鈔　栗本鋤雲手写　一冊

その外、影印百部叢書・無求備斎老子集成初篇等である。

文献複写

マイクロフイルムによる副本作製は、公私の文庫所蔵本について行い、その全巻を撮影せる現蔵量は三月卅一日現在整理登録を完了せるものを、被撮影本によって数えれば、本年度増加数は二五三部四二九冊、累計二三〇七部七二五一冊。百呎ネガフイルム三五九巻・同ポジフイルム三四〇巻（以上百呎未満を除く）に

達した。

この撮影は本文庫の研究事業計画に賛意を表され、貴重なる御所蔵本の複写を許可された所蔵者各位の厚意によるもので、その主な芳名を録して、感謝の意を表する。

東山御文庫殿　長沢規矩也殿、山岸徳平殿　正宗文庫殿　上野精一殿　叡山文庫殿　斎藤報恩会殿　宮城県立図書館殿　東北大学附属図書館殿　足利学校遺蹟図書館殿　京都大学人文科学研究所殿　竹本家穂久邇文庫殿　西尾市立図書館岩瀬文庫殿

財団法人永青文庫との図書寄託契約

旧熊本藩主細川家襲蔵の美術品・図書を所蔵する財団法人永青文庫（理事長細川護貞氏）と本塾との間に五月十日附を以て、同財団蔵書の利用寄託に関する契約が取り交わされ、永青文庫蔵書の一部が本文庫に寄託され、公開されることになった。今回の寄託図書は、漢学者故古城貞吉氏（熊本出身、東洋大学教授、大正十五年から昭和十七年まで本塾文学部講師を兼任）旧蔵の漢籍約二万八千冊で、「坦堂文庫」と称される。氏は生前から愛書家を以て有名で、明治後の中国文学史研究の開拓者の一人であるだけに、集の部は民国以降の出版物まで網羅し最も充実しているが、集のみならず、経・史・子の四部に広く亘り、元刊本文選を始めとする貴重書の数々と、学術的に精選されたテキストが多く、学術研究上高く評価され、今後中国古典の研究上広く学界に寄与する所多いことが期待される。

本蔵書は、五月十二、十三両日を以て細川邸より、本文庫書庫に移され、直に整理を開始した。整理ずみの分より、逐次閲覧の便を計っている。

刊行事業

斯道文庫論集　第五輯を阿部隆一著「古文孝経古写本の研究（資料篇）」のみを掲載して発行することにしたが、頁数が千頁を超過し、印刷その他の都合により今年度中に刊行することが不可能となったので、その発行は遅延せざるを得なくなった。

斯道文庫賛助員会

本年度は都合により、賛助員会運営委員会を開催せず、便宜文書を以て、文庫の年次報告、予算収支決算の審議報告をなした。今年度の新会員申込の芳名は左の通りで、申込口数は三月末日現在、二卅六口に達した。

明治生命保険相互会社社長高木金次殿
千代田生命保険相互会社社長門野雄吉殿
加藤寿夫殿

附記

「斯道文庫論集」第五輯（四十年三月刊予定）を「古文孝経古写本の研究」の専刊とする予定であったが、四十一年中にその印刷が終らず、残念ながら四十一年は本論集の発行を見ることができなかった。四十二年春未だ校了しないので、予定を変更し、第六輯の原稿を以て第五輯となし、元来の第五輯を以て第六輯に変え、此を昭和四十二年内に発行し、なるべく早く定期発行に復するよう期している。